

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2791700079		
法人名	株式会社 フレンド		
事業所名	認知症対応型共同生活介護グループホームフレンド筆ヶ崎(1階)		
所在地	大阪市天王寺区筆ヶ崎町3-20		
自己評価作成日	平成31年4月29日	評価結果市町村受理日	令和元年7月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2791700079-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和元年6月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

JR環状線鶴橋駅から徒歩5分の場所にあり、ご家族様も面会に来られやすい。
 また施設から徒歩5分ぐらいの場所に公園やコンビニもあり、散歩や買い物に行かれたりします。更にはお隣には元氣学園の園児たちが遊んでいるので、元気な声がよく聞こえ、1年に1度交流として、発表会もして下さいます。
 誕生日月には誕生会などをしたりと、行事を計画しながらしております。
 介護職員のレベルアップの為に、研修を随時行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは法人グループホーム全体の理念を基に理念の実践に向けて年度目標を職員で話し合い作成しており、職員だけでなく利用者も気持ちが一いつになれるよう一緒に筆書きしたものをリビングなど目に付くところに掲げています。職員間の連携は良く、管理者は職員の意見を聞き話し合いながら皆で同じ思いを持てるよう日々の支援に取り組んでいます。利用者には出来る事を継続してもらえようように洗濯物干しやリビングの掃除、干羽鶴折り、塗り絵、カラオケなど役割や楽しみ事を持ってもらっています。また日常会話などから知り得た情報や希望を基に家族に相談しホームで海鮮ちらし寿司を手作りしたり、大坂城公園での桜の花見や見たい動物を見に動物園に行くなど希望にそった支援に繋がっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3ぐらいの 3. 利用者の1/3ぐらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3ぐらいと 3. 家族の1/3ぐらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3ぐらいが 3. 利用者の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3ぐらいが 3. 利用者の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3ぐらいが 3. 職員の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3ぐらいが 3. 利用者の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3ぐらいが 3. 利用者の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3ぐらいが 3. 利用者の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3ぐらいが 3. 家族等の1/3ぐらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3ぐらいが 3. 利用者の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中でその人らしく暮らす。地域に密着した尊厳のある生活。その人がその人らしく暮らす。を理念としています。ミーティングなどで話し合い、実践できるように取り組んでおります。	法人のグループホーム全体の理念の基、理念の実践に向けてホーム独自の年間目標を職員で話し合い作成しています。行いに真心を持って接すると真心で返ってくる事など職員だけでなく利用者にも同じ思いを持ってもらえるよう各フロアの入口やリビングに利用者と一緒に手書きし目に付きやすい所に掲げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通じ、自治会や地域のイベント等の情報交換を行っている。	近くのコンビニ等に買物に行った際は挨拶をしたり、気軽に声掛けをしてもらっています。隣にある保育園とは年に一度地域交流の際に園児のホームへ訪問がありプレゼント交換やお遊戯の披露をもらっています。また編み物のボランティアの受け入れを行っています。今後は地域の盆踊りへの参加やホーム行事へ地域の方を招待していきたいと考えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設での取り組みや、イベントへの招待など運営推進会議を通じて発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	情報交換を頂きながら、ご家族様や認知症のご利用者様にも参加頂き、意見を述べて頂いている。	会議は利用者や地域包括支援センター職員の参加を得て近隣の同法人のホームと合同で開催し、時々家族や民生委員の参加を得る事もあります。利用者の状況や行事、研修の報告を行い、身体拘束についてパンフレットを使用したり事例を基に説明し参加者と話し合っています。また地域の情報や研修案内、ボランティアについての意見をもらい今後活かしていく予定です。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	公費の方が多く、担当ケースワーカーさんと話をする機会が多く、色々と支援にかかわるアドバイスを積極的に頂いている。	介護保険の更新時や運営上の報告、また制度上不明な点があれば直接区役所の窓口に出向いて聞いています。認知症介護の実践者研修など必要な研修については参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない為に、研修の中に取り込んだり、また身体拘束適正会議を定期的実施している。	身体拘束については年1回の研修や3ヵ月に1回身体拘束適正化委員会の開催、職員間で身体拘束について話し合い、法人の取り組みとして不適切ケアチェックを年に数回行い分析後に話し合う機会を持っています。管理者は言葉による行動制止について意識を持つ事が大切である事を伝え、不適切な場面が見られた場合はその都度注意しています。家族の了解を得て安全のためセンサーマットを利用している利用者もいます。また玄関やユニットの入口は施錠していますが状況により解除する時間を設けたり、外に行きたい様子があれば一緒に散歩やベランダでの外気浴など気分転換をもらっています。	

認知症対応型共同生活介護グループホームフレンド筆ヶ崎(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について、新人研修や、コンプライアンス研修を実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人が、一部ご利用者に就かれたことにより、職員との話し合いをもうけ、支援を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	都度、ご家族様とご利用様の相談援助を実施している。担当者会議の時にも確認など行うようにしている。	利用者の要望については日頃の関わりの中や運営推進会議の中で聞いており、寿司を食べたいやペンギンを見たい、桜の花見に行きたいなど得られた要望については都度反映しています。家族にはブログや面会時に利用者の日頃の様子を伝え、コミュニケーションを図り聞いています。個別に関する事や感謝の言葉を得られる事が多い状況ですが得られた意見は改善に向けて取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット毎に会議を開催し、意見陳述が行える機会を設けている。	管理者会議の内容を伝える際など月1回程度各フロア毎で小ミーティングを行い改善事項等について話し合い、申し送りノートで共有しています。行事毎に担当が決まっており担当者中心に進めています。重度化した場合でも湯船に浸かれるよう支援したいとの職員の思いより管理者が法人に挙げリフト浴の設置を試すなど提案を反映させて取り組んでいます。また管理者による面談があり、日々の中でも声を掛け話をする機会があります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や、内部研修等を実施したり、教育支援制度を利用し、資格取得したりと取り組んでいる。		

認知症対応型共同生活介護グループホームフレンド筆ヶ崎(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や資格取得の支援などの機会を通じ、他事業所との交流の機会をもてるようにしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談では、緊張されることもある為、安心してお話できる雰囲気づくりをしてから、困っていることや、していきたいことなどを確認しながら関係が作れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面談時に、入所を考えられるきっかけを確認しながら、またニーズを聞き支援できることなどを伝え、相談にもものように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面談時に、お話をし、家族にもニーズや出来ていることや出来ない事を確認し、ご本人の生活歴なども確認して対応するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の出来る事をして頂き、できない事もサポートしながら少しでもご自分の力を出せるよう支援していった。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人のご要望を聞きながら、家族様にも情報を頂いたり、ご本人の状況により、ご家族様にも協力をお願いしながら築いていった。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の機会をもうけている。また、家族に写真などを持って来て頂いたり、支援に努めている。	日々の会話の中や家族に聞いて情報を得ており、同僚だった方や友人などの訪問があればリビングや居室でお茶を出しゆっくり過ごしてもらえるよう配慮し、意思疎通が困難な場合は職員が仲介する事もあります。家族の協力を得て自宅に帰ったり、買物や親戚が集まる法事に行く方もおり事前に薬の準備や注意点等を伝えていきます。また手紙をもらったり、携帯電話で家族と話をすることも関係継続の支援に努めています。	

認知症対応型共同生活介護グループホームフレンド筆ヶ崎(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士が気が合う方の近くに席を作ったり、間に職員が入り、場を盛り上げたりしながら、関わりあえるように支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じた相談・支援は行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話を聞き、意向に添えるように努めている。また、困難な方にはどのように支援していけば良いか、ミーティングで、その人の立場になり考えるように努めている。	入居前に病院や施設などを訪問し、本人や家族から生活歴や家族構成、身体状況、希望などについて聞き取っています。入居後は知り得た情報を介護記録に記載し、意思疎通が困難な場合は顔の表情や目の動きで思いを汲み取り、日々の申し送りやフロアミーティングで話し合いながら本人本位に検討し思いや意向の把握に繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	実施している。	本人や家族の希望やアセスメントを基に介護計画を作成しています。計画は基本的に長期目標1年、短期目標半年で期間設置し半年毎にモニタリングを行い見直しをしています。見直しにあたっては再アセスメントを行い、サービス担当者会議を利用者と家族参加で開催し、参加出来ない家族の意見は電話で聞いており職員の意見は事前に聞いています。また必要により往診時に医師の意見も聞いて計画に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りや、フロアミーティングなどで、話し合うようにしている。		

認知症対応型共同生活介護グループホームフレンド筆ヶ崎(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している。	入居時に希望のかかりつけ医を聞き、継続している方は往診や家族対応で受診し、情報は口頭や必要に応じて1か月の様子をまとめた書面で提供しています。ホームの協力医による往診が月に2回あり、同クリニックから週に1回看護師の訪問がありいずれも24時間連絡体制が整えられ指示を仰いでいます。専門医への受診が必要な場合は協力医より紹介状をもらい、基本的に家族対応で受診し、難しい場合は支援をしています。また必要や希望に応じて精神科や歯科往診、訪問リハビリやマッサージを受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に看護師には相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	実施している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	支援している。	入居時に重度化や看取り対応に関する指針を基に説明し、状況により看取り支援が可能な事を伝えていきます。実際に重度化した場合は医師から家族に説明があり、希望を確認しホームで出来る範囲の事を伝え方向性を決めています。看取り支援に入る場合は体制を整えて支援にあたり、医師や看護師は状況により毎日来る事もあり、家族は面会を増やしたり食事介助を行っています。また看取りに関するマニュアルの作成や研修を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実施している。		

認知症対応型共同生活介護グループホームフレンド筆ヶ崎(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	築けている。	年に2回昼夜を想定した消防訓練を行い、うち1回は消防立ち会いの下行っています。訓練では通報や消火器の使い方を行い、消防からはベランダに出るように避難についての助言があり自主訓練の際にも活かしています。また水や食料等3日分の備蓄とヘルメット等の備品を準備しています。	地域への協力体制が不十分な状況ですので、地域消防団について自治会長に話を聞いたり、訓練の際は近隣の方にポスティング等で案内し、また日頃の関わり合いを深める事によって協力を得られるよう働きかけてみてはいかがでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	実施している。	虐待についての研修の中で尊厳について学ぶ機会があり、不適切ケアチェックを行う際にも対応について話し合っています。管理者からは利用者は年輩の方であり、親しみを込めて接する中にも目上の方として尊重する事や名前の呼び方に配慮したり、命令口調にならない事等を伝えています。日々の支援の中で不適切な対応が見られた場合は都度注意しており、また希望に応じて同性介助に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	実施している。	業者の献立にそってチルドで届き温め盛り付けて提供し、ご飯と汁物はホームで準備し、職員も同じ食事を一緒に食べています。希望については業者に直接伝える事が可能で献立には旬の物や選択が出来る行事食等もあります。日々の中で利用者は米を洗ったり、食器洗いや拭きに携わってもらい、月1回程度は希望を聞きながら献立を決め手作りし、食材の買物や盛り付け等出来る事を一緒に行っています。また誕生日のケーキ等のおやつも一緒に作っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者様にあった食事形態で提供し、水分量も把握できるように支援している。		

認知症対応型共同生活介護グループホームフレンド筆ヶ崎(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	支援している。	排泄記録を日々の介護記録にチェックし自立している方にも確認しながら全利用者のパターンを把握しています。定期的にトイレに誘導する事によって失敗が減ったり、入居時に歩行が難しかった方が歩行訓練をする事によってトイレで排泄出来るようになり紙パンツだけで過ごせるようになったケースもあります。日々の申し送りやサービス担当者会議の際には一人ひとりに合った支援方法や排泄用品の選択について話し合っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲み物も気をつけたり・ホットパットをし、腹部を温めたり、運動を促したりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	実施している。	入浴は基本的なや週に2回午前中から15時までの時間帯で支援しており、家族の協力を得て毎日入る利用者もいます。拒否が見られる場合は声を掛ける職員や時間帯を変えたり、声掛けの工夫をしながら無理の無い入浴に繋げています。一人ずつ湯を変え、好みのシャンプーを使ったり入浴剤で香りを楽しんでもらっています。またミストシャワーの設置や現在リフト浴を試しており重度の方も湯船に浸かってもらえるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支援している。		

認知症対応型共同生活介護グループホームフレンド筆ヶ崎(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	努めている。	散歩やコンビニへの買物、ベランダに出てお茶を飲んでもらう等外出や外気浴に出来るだけ触れるよう支援しています。初詣や桜の花見等の季節の外出や公園にピクニックに行ったり、ショッピングモールに外出に出かけたり、また希望にそって少人数で動物園にも行っています。家族の協力を得て自宅に帰ったり、買物や親戚が集まる法事に行く方もいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	実施している。	リビングには利用者と一緒に作成した季節の貼り絵や習字、塗り絵などの作品を掲示し、廊下にも写真を飾っています。机や椅子は利用者が落ち着かない場合など状況に合わせて配置をしています。掃除や換気は毎日行い、使いやすい掃除道具をリビングに置き利用者がいつでも掃除しやすいようにしています。加湿器を置き、室温は利用者体感を確認しながら調整し居心地よい空間づくりに努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	実施している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される時に、なるべく馴染みの物を持参いただくように、お願いしている。	入居時に使い慣れたものを持ってきてもらうように伝え、利用者はこれまで使っていたタンスや椅子、テレビ等を置き、配置は本人と家族で行っています。また大切にしている仏壇や家族の写真を飾ったり、趣味の編み物の道具や作品を側に置き、好きな歌手のポスターを貼ったりCDを聴く方もいます。携われる利用者と一緒に掃除をしはなど居心地よく過ごせる居室となるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	福祉用具を使用しながら、安全に暮らしているよう工夫している。		